

第3学年 国語科 学習指導案

令和4年6月27日(月) 5校時

2 組

29 名

指導者

前野 理恵

1 単元名 段落とその中心をとらえて読み、かんそうをつたえ合おう

(教材名「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」「全体と中心」光村図書3年上)

2 単元について

(1) 単元の価値とねらい

この期の児童は、これまでに第1学年でいくつかの教材を通して「問い」と「答え」を捉えて読む力を培ってきている。また、第2学年では、情報と情報との関係や順序を追って読む力を、培ってきている。

そこで、本単元では、段落とその中心を捉えて読む力を培うために、「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」を教材とし、感想を伝え合う言語活動を設定する。児童は、この単元で初めて「段落」の意味や働きについて学ぶことになる。二つの教材「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」は同様の構造であり、「言葉で遊ぼう」は、「こまを楽しむ」の練習教材として位置付けられている。見開きで全文を見渡すことができ、児童にとって身近な言葉遊びが事例として紹介されているため理解しやすく、文章構成や内容がシンプルであることから、本単元における中心的な指導内容である「段落」「文章構成」「中心」などについて、理解しやすい。

次に「言葉で遊ぼう」で学んだことを活用し「こまを楽しむ」を読み取り、定着を図ることをねらいとしている。2つの教材文とも複数の事例が列挙されており、説明的な文章を正確に読み取るために必要な、「段落」に基づいて全体構想を掴む力が身に付くと考えられる。また、まとめでは2つの教材とも「このように」という指示する語句を使ってまとめていることから、指示語の役割についても理解できるようになると考える。さらに、感想を伝え合うことで、多角的なから深い読みへと繋げることができると考える。

本単元で学習したことは、同様の文章構成をもつ「すがたをかえる大豆」の学習へと繋がっていくものである。ここで、事例の順序にも筆者の意図があるということを意識付けておくことで、筆者の思いに迫るさらに深い学びへと繋がっていくと考える。

(2) 系統

	教材名	単元を通して身に付けさせる力
2年	○たんぽぽのちえ ◆じゅんじょ ○どうぶつ園のじゅうい ○馬のおもちやの作り方 おにごっこ	・順序やわけに気を付けて読む。 ・順序に着目して、理解・表現する。 ・文章の内容と自分の体験とを結びつけて読み、考えをもつ。 ・説明のしかたに気を付けて読む。 ・文章の中の重要な語や文を見つける。
3年	○言葉で遊ぼう／こまを楽しむ ◆全体と中心 ○ポスターを読もう ○すがたをかえる大豆 ○ありの行列	・段落とその中心を捉えて読む。(段落／問い(問いの文)) ・全体と中心の関係に着目して、理解・表現する。 ・作られた目的や対象を考えながら読む。(キャッチコピー) ・話題と、事例の書かれ方を捉えて読む。 ・段落どうしのつながりに気をつけて読み、互いの共通点・相違点に注意しながら感想を伝え合う。
4年	○思いやりのデザイン／アップとルーズで伝える ◆考えと例 ○世界にほこる和紙	・文章構成や段落同士の関係を確認し、筆者の考えを捉える。(対比) ・考えと事例の関係に着目して、理解・表現する。 ・中心となる語や文を見付けて要約する。

(3) 指導の基本的な立場

教材「こまを楽しむ」は、「初め」で「問い」が示され、「中」でその「答え」となる事例が列挙され、

「終わり」で事例のまとめや筆者の思いに関わる内容が述べられている。第一教材「言葉で遊ぼう」と同様の構造であることから、重ねて読むことで「段落」に基づいて全体構想を掴む力を育むのに適した教材である。

そこで、本単元では、段落や「初め」「中」「終わり」など、文章のまとまりを意識して読むことを学び、今後の説明的な文章の学習の基礎となる内容を押さえることができるようにする。

具体的には、まず「言葉で遊ぼう」ではじめの段階に「問い」が2つあることに気付かせ、「問い」に対する「答え」に線を引かせながら、1段落ずつ丁寧に押さえていくようにする。そうすることで、段落ごとに構成される文の数が減り、難易度が上がってくるが、同じように考えられることに児童自身で気付かせたい。また、「書かれていること」だけではなく、「書かれ方」についても児童の気付きをもとに、深められるようにすることで、第二教材「こまを楽しむ」へと繋げていけるようにする。

次に、「言葉で遊ぼう」では事例が3つなのに対して、「こまを楽しむ」では、事例が6つ挙げられ、児童の身近なものからそうでないものへと配列されているが、内容面、表現面ともに共通性があるために、第一教材「言葉で遊ぼう」で学んだ知識・技能を生かして、主体的に読み取るようにする。また、「中」の事例が大きく2つに分けられることに気付かせ、文章をまとまりごとの意味段落で捉えられるようにする。そうすることで、「終わり」である全体のまとめが、指示語を活用した「中」の事例をまとめた記述であることに気付かせていく。

さらに、「感想を話す」という言語活動を通して、文章の内容を捉えて読み、感想を述べられるようにする。紹介されているこまから自分が遊んでみたいものを選び、一人一人の興味や考え方の違いが分かるように可視化し、感想を交流することで、違った角度から文章を再検討して読み取れるようにする。

(4) 児童の実態（令和4年5月16日実施 調査対象29名）

【意識面】

① 国語の学習でどんな内容の学習が好きですか。

読む活動	書く活動	話す・聞く活動
7	12	10

② 国語の問題でどんな問題が好きですか。

文章問題（読む）	漢字の問題	自分の考えを書く問題	言葉をうめる問題
3	13	7	6

③ 国語の学習で自分の考えを友達や先生に説明することができますか。

いつもできる	まあまあできる	あまりできない	できない
9	15	5	0

④ 国語の学習で自分の考えを文章にまとめることができますか。

いつもできる	まあまあできる	あまりできない	できない
11	14	4	0

⑤ ペア・グループ学習で、自分の考えが深まったり高まったりすることがありますか。

よくある	たまにある	あまりない	ない
10	16	3	0

⑥ 国語の学習では、どんな活動をする人が多いですか。2つ選びましょう。

先生の説明を聞く	学習の順序や方法を考える	実験や観察、見学など体験する
14	2	0
課題について調べる	自分でじっくり考える	自分の考えを文章にまとめる
1	6	5
問題を解いて答え合わせをする	ペアやグループで考えを出し合ったり教え合ったりする	自分の考えをもとに話し合う
9	10	5
発表したり、説明したりする	プリントや問題の練習をする	学習ゲームをしたり、クイズをしたりする
6	0	0

⑦ 国語の学習は生活で役立つと思いますか。

すごく役に立つ	まあまあ役に立つ	あまり役に立たない	分からない
21	5	0	3

⑧ 国語の学習で「楽しい」と感じたり、勉強して「よかった」と思ったりすることがありますか。

よくある	たまにある	あまりない	ない
1 4	1 3	1	1

【考察】

①②より、どの内容においても、好きと答えた児童が同じくらいいることが分かる。ただ漢字の問題や自分の考えを書く問題に比べ、文章問題（読む）を好きと答える児童が少ないことから、文章の読み取りに苦手意識を持っていると考える。③④より、自分の考えを説明したり文章にまとめたりすることができると思えた児童が8割以上いる。日々の活動の中で、正答・誤答に関わらず自分なりの言葉で説明したり文章にまとめたりしていることから、できると考えている児童が多いのではないかと考える。⑤より、ペア・グループ学習によって考えが深まったり高まったりした経験をもつ児童は多く、互いに教え合ったり伝え合ったりする対話活動のよさを感じていると考えられる。⑧より、先生の説明を聞いたり課題について調べたりすることが多くなっていることから、自分なりの考えをもったあとの互いの交流による対話活動や自分の考えを説明する活動の経験が十分でないことが分かる。⑨⑩より、国語の学習の良さについては感じているものの、生活での必要性について実感していない児童もいることが分かる。

【単元の内容に関する面】（令和4年5月16日実施 調査対象29名）

① 段落という言葉を知っているか。
・知っている（0名） ・知らない（29名）
② 「こまを楽しむ」を読んで思ったこと（複数回答）
・こまが世界中に親しまれている。（8） ・こまは昔からある。（2） ・こまには色々な形や種類がある。（14） ・色々な遊び方がある。（1） ・こまの回り方について（10） ・全てのこまが、じくを中心にバランスをとって回っている。（1） ・こまで実際に遊びたい。（4） ・こまの種類が多いのが日本だということで驚いた。（9） ・他のこまを知りたい。（1）

【考察】

単元に関する①の質問から、本学級の児童は、「段落」という言葉を全員が知らないことが分かる。今回、新たに出て来る言葉でもあるため、言葉とその役割について十分に理解させる必要がある。また、②の初発の感想から、多くの児童が、こまの種類の多さやその回り方について興味をもったことが分かる。多くの感想が、「初め」と「中」の部分から書かれているが、1名「終わり」の部分から感想を持っていた児童もいる。多くの児童にとって、普段目にしているこまが少ないため、種類の多さに目を奪われたものと考えられる。

(5) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、段落とその中心を捉えて読み、感想を伝え合うことができるように、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切であると考えられる。

ア 「言葉で遊ぼう」を読み、「段落」を知り、「初め」「中」「終わり」を確認する。そして、2つの「問い」と「答え」から、各段落の内容を捉えていく。さらに「終わり」を読み、感想を交流させる。

イ 「こまを楽しむ」を通読し、「言葉で遊ぼう」で学習したことをもとに、全体の構想と内容の大体を捉えさせる。そして、全文ワークシートを活用し、「問い」と「答え」に着目させ、各段落の内容を読ませる。また、「初め」「中」「終わり」の「中」の段落の書き方について学ばせていく。

ウ 「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」で学んだことを生かして自分ならどんなこまで遊びたいかを考え、「中」の段落の書き方にならって書かせる。そして、書いたものをもとに発表させ、感想を交流し、最後に単元の学習を振り返る。

エ 自分の考えを友だちに説明するために、ノートに自分の考えを言葉で書く時間を設けたり、個別指導の際に確認したりすることで、ペア学習や全体での発表の際に自分の考えについて説明することができるようにする。

オ 自分の考えをまとめたあと、友だちと交流する場を設定することで、いろいろな考えを知り、多角的に考えられるようにする。

3 単元の目標

- (1) 段落の役割について理解することができる。(知・技)
- (2) 全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技)
- (3) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表)
- (4) 目的を意識して、中心となる語や文を見つけようとしている。(学・人)

4 指導計画（全8時間）

過程	主 な 学 習 活 動	時	指導上の留意点・評価
つかむ・見通す	1 単元の目標を確認し、学習計画を立てる。	1	○ 児童の興味・関心を高めるために、事前に言葉遊びの本を掲示したり、こまで実際に遊べるように展示したりする。 ○ 教師の遊んでみたいこまについて書いた文章を提示することで、見通しをもって単元に取り組むことができるようにするとともに、「昔から伝わる遊び」について、並行して自分の選んだ本を読むように促す。 【態】 文章の内容に興味をもち、単元の目標や学習の流れを確認して、学習の見通しをもっている。
	2 「問い」と「答え」に着目して、「言葉で遊ぼう」の各段落の内容を読み、「初め」「中」「終わり」の文章構成を知る。	2	○ 全文ワークシートに線を引くことで、「問い」と「答え」の関係を捉え、内容を整理しやすくする。 ○ 「問い」と「答え」に着目することで、「初め」「中」「終わり」の三部構成であることを捉えるようにする。 【思】 「初め」「中」「終わり」の文章構成とその捉え方について理解している。
調べる・深める	3 2つの問いを捉え、「こまを楽しむ」を読み「初め」「中」「終わり」の文章構成を確認する。	3	○ 第一教材「言葉で遊ぼう」と比較することで、「問い」を手掛かりに、「初め」「中」「終わり」という構成を捉え、主体的な読みができるようにする。 【知】 それぞれの段落や文章全体の中心となる言葉や文があることを理解している。
	4 「中」を「答え」に着目して読み、中心となる言葉や文を確かめ、整理する。	4	○ 全文ワークシートに2色の色鉛筆を使って線を引くことで、2つの問いに対する「答え」がまとめられるようにする。 【思】 段落相互の関係に着目して、文章の内容と構成を理解している。
	5 「終わり」は、「中」をどのようにまとめているか考える。	5	○ 指示語や接続語に注目することで、「終わり」の内容が「初め」や「中」に対応していることに気付けるようにする。 【思】 段落の中心となる言葉や文を捉えている。
	6 6つのこまの中から、いちばん遊んでみたいこまを選び、理由と合わせてワークシートにまとめる。	6	○ 「こまの種類」「楽しみ方」「選んだ理由」の3文構成を確認することで、叙述に基づいて自分の考えをまとめることができるようにする。 【思】 文章を読んで理解したことに基づいて感想をもっている。

まとめる・振り返る	7 いちばん遊んでみたいこまについて交流し、友達の感想との共通点や相違点など、考えたことをまとめる。	7	○ 友達がどのこまを選んだかを可視化することで、選んだものが同じでも理由がそれぞれあり、人それぞれ感じ方に違いがあることに気付けるようにする。 【思】 交流して、互いの感じ方や考え方の違いに気付いている。
	8 「全体と中心」を読み、文章全体や段落の中心を捉えるよさを整理する。単元の学習を振り返る。	8	○ 本単元で学習したことを振り返ることで、話の中心を捉えることのよさを確認する。 【知】 全体と中心という、情報と情報との関係について理解している。

5 本校の研究テーマとの関連

(1) 研究テーマ

「自己を見つめ、他者のよさに気付き、互いに認め励まし高め合う子どもの育成」

(2) 授業の視点

視点イ②交流活動の充実において

ア 調べる段階で、自力解決の後、グループで学習に取り組ませ、自分の考えを説明させるとともに、理由を伝え、考えを補い合えるようにする。また、考えた理由が様々あることに気付かせる。

イ まとめる段階では、「終わり」の段階に何が書かれているか、これまで学習してきたことを生かして発表することで、児童の言葉でまとめ、考えを深められるようにする。

視点ア③振り返りににおいて

ア 振り返り段階では、振り返りカードに「他者理解」の視点で書くことを伝えることで、他者意識をさらに深められるようにする。

6 本時（5／8）

(1) 本時の目標

「終わり」と、「初め」や「中」との段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができる。
(思・判・表)

(2) 指導上の留意点

- 「つかむ・見通す」過程では、前時までで読み取った、「初め」に書かれていた「問い」に対する「答え」が「中」に書かれていたことと、その答えの内容を電子黒板で確認することで、「終わり」にはどんなことが書かれているのか追究しようという意欲を高めていく。また、学習のめあてを捉えさせる際には、学習計画表で確認し、掲示資料等も参考にしながら読みを深めていけるようにする。
- 「調べる」過程では、「終わり」の3文でどれが大事なランキングを付けさせ、みんなが自分の意見をもってグループ活動に参加できるようにする。また、なぜその1文を選んだか、理由を書かせることで、その文章に何が書かれていたか捉えられるようにする。
- 「まとめる」過程では、グループでの話合いで出された意見を発表させ、まとめていくことで、「終わり」の部分には、「中」で書かれていたことがまとめて書かれていたことに気付けるようにする。その際、挿絵も利用することで、視覚的にも分かりやすくするとともに、どうしてそのような段落構成になったのか考えさせるきっかけにする。
- 「振り返り」の過程では、単元の初めに見せた「先生の遊んでみたいこまカード」を見せることで、次時への意欲付けができるようにする。

(3) 実際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	指導上の留意点 ※評価 ①交流活動の充実 ②振り返り
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。 どんなこまがあるかな？ どんな楽しみ方ができるかな？ 2 本文を音読する。 ・段落読み	7	○ 前時までの学習を電子黒板を使って、振り返ることで、「はじめ」「中」「終わり」の関係性を捉えやすくする。 ○ 前時の振り返りを生かして、終わりの段落を読むことで、「段落」を意識しやすくする。
見通す	3 本時の学習のめあてを捉える。 「終わり」には、どんなことが書かれているのだろうか。	5	○ 学習計画表で本時の学習内容を確認することで、「終わり」の部分を読み取ることを意識させる。
調べる	4 「終わり」の文で、どの文が大事かランキングを付ける。 ・一文目が大事。 →「このように」と文をまとめているから。 ・二文目が大事。 →ちがうところや同じところを書いてあるから。 ・三文目が大事。 →楽しみ方が書いてあるから。 (1) 自分がつけたランキングをもとに、グループで話し合い、意見交流を行う。 (2) グループで決めたランキングを発表する。 5 「終わり」の三文に何が書かれているか確認をする。 「回る様子」を楽しむこま …色がわりごま・鳴りごま・さか立ちごま 「回し方」を楽しむこま …たたきごま・曲ごま・ずぐり に分けられる。 (1) なぜ事例がこの順番で書かれているのか考える。	20	○ 何文目がいいと思うかをまず選ばせることで、自分の考えをもつことが苦手な児童の、本時の学習へ参加する基盤とする。 ① ワークシートに自分の意見を書かせることで、交流の際に自分の考えを発言しやすくする。 ① 自分がどのようにランキングを付けたか理由をもとに交流することで、多角的に文章を読み取れるようにする。 ① それぞれのグループの考えを発表させることで、自分のグループの考えと比較させながら考えを深められるようにする。 ① それぞれのグループから出された意見をもとに、「終わり」に何が書かれているかを確認することで、児童の考えが生かされていることを実感できるようにする。 ○ 「終わり」の文と「中」の挿絵を対応させることで、「終わり」の1文に「中」の楽しみ方がまとめられていることに気付けるようにする。 ○ 事例がなぜこの順番で書かれているか考えさせることで、身近なものからそうでないものの順になっていることに気付けるようにする。
まとめる	6 本時の学習のまとめをする。 「終わり」には、「はじめ」や「中」にあることが、まとめられている。	3	① 「終わり」にどんなことが書かれていたか、児童の意見を引き出し、まとめることで、児童自身が学びを実感できるようにする。
振り返る	7 見届け問題をする。 8 本時の振り返りをする。 9 次時の見通しをもつ。 ・自分だったら、どのこまで遊んでみたいかな？	10	○ 5分間テストを実施することで、本時の内容を理解できているか、見届けを行う。 ② 振り返りで、他者との交流の視点を与えることで、他者理解にもつなげるようにする。 ○ 単元初めに見せた「自分の遊んでみたいこまのカード」を見せることで、次時への意欲を高める。

(4) 評価

「終わり」と、「初め」や「中」との段落相互の関係に着目して、文章全体の構成を整理して捉えることができたか。

7 板書計画

こまを楽しむ

めあて

「終わり」には、どんなことが書かれているのだろうか。

はじめ

二つの問い

どんなこまがあるのでしょうか。
どんな楽しみ方ができるのでしょうか。

中

六つのこま

分かりにくいこまへ

色がわりこま
鳴りこま
さかだちこま
たたきこま
曲こま
ずぐり

「回し方」を楽しむ



「回る様子」を楽しむ



おわり

このように、日本には、さまざまなしゅるいのこまがあります。それぞれ色も形もちがいますが、じくを中心にバランスをとりながら回るといふ作りは同じです。人々は、このつくりにくふうをくわえ、**回る様子**や**回し方**でさまざまな楽しみ方のできるこまをたくさん生み出してきたのです。

まとめ

「終わり」には、「はじめ」や「中」にあることが、まとめられている。